

令和 6 年度 全国学力・学習状況調査の結果分析について

令和 6 年度全国学力・学習状況調査における本校の結果分析についてお知らせいたします。職員一同で情報を共有し、本校の教育活動にいかしていきたいと思えます。今後ともよろしくお願いいたします。

なお調査の結果は児童の学力や教育活動の全てを計るものではありません。調査の結果は、児童の学力や学校における教育活動の一面であることを申し添えます。

1. 教科に関する調査より

(1) 国語

- 「知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項」と「思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと、B 書くこと」に関わる問題を得意にしている。
- 漢字の定着が不十分である。また、記述式の正答率も低かった。
- 一番の理由は時間が足りなかったことであると予想できるが、無解答率が高かった。

(2) 国語の補足説明

- ・「思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率は、昨年度から大きく伸びている。話し方や聞き方のルールを全校で定めていることや、新型コロナウイルス感染症の影響で行えていなかった話し合い・伝え合い活動が十分に行えるようになったことが大きな理由として考えられる。そのため、今後も積極的にこれらの活動を取り入れていく必要がある。
- ・全部で 2 問の「記述式」の問題は、特に後半の問題の正答率が低くなっている。1 問目の問題の正答率が千葉県と全国の平均とほぼ変わらないことや児童へのアンケート結果からも、時間の不足が、正答率が低い最も大きな理由として考えられる。そのため、どの教科でも「大切なこと」「聞かれていること」などの視点を持って、文章問題を要約する経験を重ね、課題を素早く正確に把握する総合的な力をつけていけるようにしたい。

(3) 算数

- どの領域・観点に関しても、学力が身に付いてきている。
- 「B 図形」に関わる問題を苦手になっている。
- 記述式の正答率が低かった。

(4) 算数の補足説明

- ・他の領域が得意でも、図形だけ苦手という児童もいるため、新しい図形や面積・体積の求め方が出てくるたびに、既習事項の振り返りを行い、問題を繰り返し解いていく必要がある。

2. 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査より

(1) 傾向の分析

- 規則正しい生活を送っており、よく勉強している。
- 学校生活を楽しんでおり、各教科の大切さを実感しながら意欲的に学習に取り組んでいる。
- 課題解決に向けて自分で考えたり工夫したり、自己決定したりすることに苦手意識をもっている。

(2) 傾向の分析の補足説明

- ・昨年度低い傾向にあった「友達や地域、外国の方など、自分以外の誰かとの関わりに関する質問」を見ると、それらに対する意識がとても高まっていることが分かった。これは、新型コロナウイルス感染症の影響が弱まり、地域行事が復活したり、各教科で話し合い・伝え合い活動、外部講師の活用を積極的に行ったりしたことによるものではないかと予想できる。

3. 改善のための主な方策について（継続事項も含む）

学力向上のために

- ・低学年では朝学習の時間を設定し、読み・書き・計算の基礎基本の定着を図る。
- ・どの学年であっても、新出漢字の指導をしっかりと行う。また、小テストなどを有効活用する。
- ・全学年で自主学習ノートを実施する。その際、学校で統一した学習の進め方の冊子を配付したり、主体的な学習ができている児童のノートを学年掲示板で紹介したりすることで、よりよい取組につなげる。
- ・校内研究において、本校の傾向や課題に即した指導法等について、講師を招聘し、協力を得ながら指導力の向上を図っていく（できる限り図形領域を実施する）。問題把握の際は、高学年を中心に、少しずつ要約する活動を取り入れていく。
- ・算数では、見通しをしっかりと持って自力解決にのぞむようにする。さらに、ヒントカードを用意したり、パビリオン形式で互いの考えを見合う時間を取ったりすることで、苦手な児童も粘り強く取り組めるようにする。その際は、比較検討の時間も見据え、式や図、言葉を関連付けながら説明することを大切にする。また、適用問題の時間をしっかりと確保することにより、解く問題数を多くし、学習の定着を図るとともに、応用力も身に付けられるようにする。
- ・どの教科でも学習問題を必ず立て、課題を明確にする。
- ・各教科で話し合い・伝え合い活動を重視し、学校全体で共通して取り組むことを明確にする。その際端末を利用して、積極的に「ロイロノート」を活用する。
- ・e ライブラリを中心に、端末を利用した課題を出し、意欲の向上や学習内容の定着、家庭学習の充実を図る。（※この方策は「家庭との連携」にも該当する）
- ・「ちばっ子チャレンジ100」を活用し、授業時間だけでは定着に至らなかった内容を、朝学習の時間や家庭学習の時間に行う。（※この方策は「家庭との連携」にも該当する）
- ・4月の懇談会では、上記自主学習ノートの説明などと共に家庭学習の重要性も伝える。

目指す児童像の一つである「かかわり合う子」の実現のために（改善項目の維持のために）

- ・各教科で話し合い・伝え合い活動を積極的に取り入れていく。
- ・各行事で、学校生活は家庭や地域の方の協力で成り立っていることを実感できるように、キャリアパスポートを有効に活用する。
- ・縦割り清掃や交流学級での活動を通して異学年間交流を積極的に行う。
- ・「あったかハートプロジェクト」の一環である挨拶運動では、「だれとでも・なんどでも」を合い言葉に、一部の児童が主となって活動するのではなく、交代で全学年が担当するようにする。
- ・委員会活動や係活動では、一人一人に仕事を割り当てたり、カードを活用した評価をしたりすることで、その仕事の意義や責任を感じられるようにする。
- ・道徳で「B親切、思いやり」「C勤労、公共の精神」の教材を扱う際は、学級や学校内の身近な例を取り上げることで、児童の豊かな心を育む。
- ・担任だけではなく、教職員全員が児童と積極的に関わっていくようにする。その際は、挨拶を大切にしつつ、結果だけでなくプロセスにおける頑張りを積極的に認めていく意識を高く持つ。

家庭や地域との連携を深めるために

- ・学年学級便りで学習状況を伝える。その中で、学習用具の準備や予習、復習の大切さ、学習への取り組み方を保護者に伝えるようにする。
- ・本校HPを通して、家庭への連絡の充実化を図る。また、学校生活の様子も伝えていく。
- ・家庭学習の充実を図るために、県教育委員会HPに掲載している「家庭学習のすすめ」サイトを参考にし、各学年が年度はじめの懇談会で、家庭学習の重要性や進め方について取り上げる。
- ・授業参観の実施や行事の公開を積極的に行い、家庭や地域の方に学校活動に対する理解を深めてもらう。
- ・ゲストティーチャーとして、地域人材の積極的な活用を行う。
- ・「e ライブラリ」や「MEXCBT（メクビット）学習システム」など、ICT機器を活用して、あらゆる機会や場所で問題に取り組むことができる環境を整える。

4. 補足説明

「ちばっ子チャレンジ100」「家庭学習のすすめ」について

- ・千葉県ホームページ内（<https://www.pref.chiba.lg.jp>）でキーワード検索をすると簡単に閲覧することができます。